

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

県政を
もっと
身近に



<http://www.araikinuyo.jp>

初の「ベトナムin神奈川」を開催 9月18~20日、県庁など横浜で

経済発展著しい東南アジアの国ベトナム。夏の花ハスが国花、人々の生活に深く根を下ろしている竹がシンボルとなっており、日本からの企業進出も盛んになっています。神奈川県内には留学生や滞在者約1万人がおり、昨年7月には神奈川県黒岩祐治知事と県内の企業の社長らがベトナムを訪れ、知事は同国の計画投資省副大臣とビジネスの交流やこの拠点設置促進事業などでの協力に関する覚書を締結してきました。また県立がんセンターと同国のダナンがん病院の人材交流に関する覚書も締結されました。これに基づき今年6月にはハノイの近郊にある工業団地の一角に設けられた神奈川インダストリアルパークに綾瀬市のメーカーが第1号の進出をしました。最新医療装置が導入された県立がんセンター(横浜市旭区)にはダナンがん病院の医師2人(30~40代の男女)が7月から2カ月半の研修に訪れています。

こうした事業と同時に「ベトナムを知ってもらい、交流を盛り上げていこう」と9月18日から20日にかけて、県庁庁舎やこの周辺を中心に横浜市内を会場とした初の「ベトナムin神奈川」の催しが開かれることになりました。主催は県、県商工会議所連合会、かながわ国際交流財団など11者で構成する実行委員会と駐日ベトナム大使館です。期間中約30のイベントが催され、来場者は20万人が見込まれています。国内で開かれるベトナムの祭典としては最大のもので、他に横浜市内のホテル、国際交流施設などでも「9月はベトナム月間」と位置付けての連携イベントが展開されます。

イベントは18日に日中から夜にかけ横浜市内のホテルで、ベトナム投資環境セミナー、同国企業と県内企業との商談会など経済交流プログラム、19~20日に日本大通り・県庁本庁舎で文化交流プログラムが行われます。注目の催しとしては女優の剛力彩芽さんに同フェスタのアンバサダーを務めてもらうための任命式(19日)、ベトナムと神奈川で生産された約1万本の花を使い、県庁本庁舎前に大きな花のじゅうたんをしつらえる催し(19日)、ホイハン市で毎月、満月の夜に行われる有名なランタン祭りにちなみ寄贈されたランタンがともされる「ベトナムランタンナイト」(19日)、ベトナム民俗芸能の「水上人形劇」の上演(19~20日)などがありますが、他にもベトナムの食の探訪・映画上映・コンサート・街角アート、日越ダンスパフォーマンスなど盛りだくさんです。詳細は県のホームページで紹介されています。



コレが言いたい!

県内中小企業では、アジアを中心とした海外進出が増えています。今後、中小企業が海外進出し易いよう、本県で発展途上諸国の中堅人材や指導者層を受け入れ、その国と本県のパイプ役を担う人材を育成し、人的ネットワークを形成していく必要があります。

今月の
ひと言

毎年9月は健康増進普及月間・がん征圧月間です。「一に運動、二に食事。しっかり禁煙、最後にクスリ。健康寿命をのばそう」を合言葉に、運動やバランスのとれた食生活、禁煙など、体にいい事を始めましょう。



磯子 あれ? これ?



森陣屋

戦国時代～江戸中・末期

陣屋とは軍隊の陣営で、江戸時代は城を持って

いない下級大名が、領地内に持っていた館。磯子区内には間宮一族が時期は異なりますが四箇所に陣屋を構えていました。その一つの「森間宮陣屋」は京急屏風ヶ浦駅の東方約200m(森3-14)あたりにある間宮康俊(元信の長男)の館。ここには白旗に因んだ話も伝わっています。かつて屏風ヶ浦の浜に穴のあいた旗立て石と呼ばれる岩がありました。安房里見氏の軍勢は屏風ヶ浦の浜に侵攻を図りました。それを察知した間宮氏が旗立て石に白旗を立てたところ、里見軍は浜に数多くの「白旗」が並んでいたのを見て間宮氏側に軍勢が大挙しているものと思いここからの上陸を諦め杉田から侵入したのではないかと語る古老もいます。

また「白旗」と言えば源氏の印とされていますが、昔この地に白旗明神社があり祭礼のときにはこの白旗を立てました。旗は何も書いていない白布なので周りの人から「下帯のようだ」といわれたので「白旗大明神」と筆太に書いて立てたところ、強風が吹いて倒れてしまいました。そこで村役達が相談の上、「白旗に手を加えてはいけない」と元の白布に戻したとのこと。この周辺には白旗商店街やバス停「白旗」の名が残っています。

参考資料:磯子の史話・日本城郭大系6

活動報告

8月10日から12日に掛けて自民党県議団有志23名で女川町や南三陸町、気仙沼市等東北視察を行いました。高台への住居移転や土地のかさ上げなどを進めていますが、人手や資材の不足で事業が中々進んでおらず、人口流出が止まりません。人口が流出した被災地に、如何に人が戻る様にするのかが今後の課題です。



左側の建物が南三陸町防災対策庁舎ですが、その建物の高さ(12m)まで土地のかさ上げを行います。



女川町でも高台への移転や土地のかさ上げが進められています。



JR仙石線は5月30日に全線開通しました。野蒜駅などは高台に移しましたが、旧野蒜駅は震災遺構として保存される事になりました。ホームは当時のままで残っています。

あらい絹世プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 平成27年4月 県議会議員2期目当選
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 県民企業常任委員会委員
- 日商岩井(株) / (株)メタルワン
- 行財政改革・地方分権特別委員会副委員長
- 自民党神奈川県議会議員団政務調査会副会長

